

湛水溝でハダニの侵入を防ぐ

[研究のねらい]

ハダニ類は周辺の寄主作物や雑草などから主に歩行して施設内へ侵入します。しかし、その進路に水を溜めた溝（湛水溝）があれば、ハダニ類はそこを越えられないはず。そこで、野菜栽培施設の外周に湛水溝を設置して、ハダニ類の侵入防止効果を明らかにします。

[研究の成果]

①施設の外周にU字溝（幅18～28cm）を設置し、作物の定植前から溝に水を溜め、栽培期間中は水を切らさないよう管理します（写真1）。

②湛水溝を設置した施設ではカンザワハダニの初発生が遅く、発生も少なくなります（図1）。

[成果の活用面・留意点]

①すでに排水用の溝が外周に設置されている施設では、排水口をふさぐだけで応用可能な場合があります。なお、湛水溝を新たに設置する場合の資材（コンクリート製U形溝）費用は、10アールの施設で20万円程度必要です。

②ハダニ類を人為的に施設内に持ち込まないように注意します。

③夏季は蒸発量が多いため、溝が干上がらないよう水を補給する必要があります。

④湛水溝はハスモンヨトウ幼虫の歩行侵入も防止します。



写真1 湛水溝の設置状況

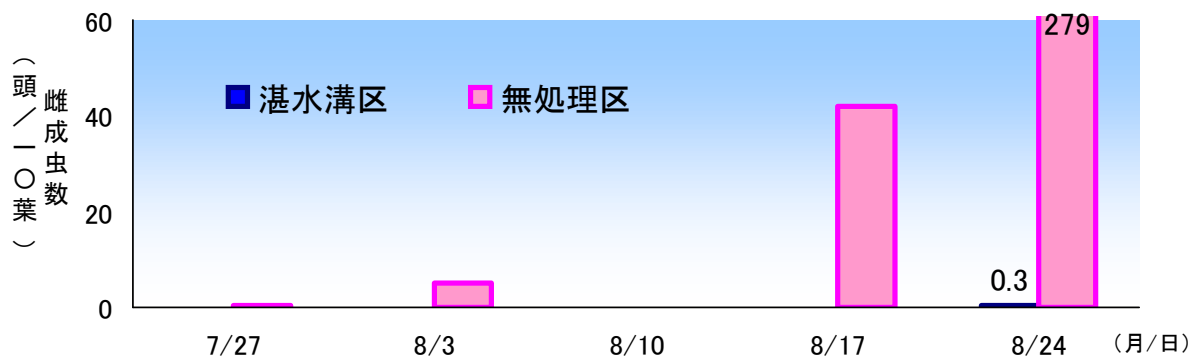


図1 湛水溝設置によるカンザワハダニの防除効果（2001年、キュウリ栽培施設）

実施年度：平成12～14年

担当者：福嶋総子、井口雅裕、矢野貞彦